

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成28年4月号）

福島第二原子力発電所1～4号機は、燃料の安定冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

引き続き、燃料の安定冷却と安全を最優先とした取り組みを進めてまいります

当社原子力発電所の事故から、5年が経過した今もなお、発電所周辺地域のみなさまをはじめ、福島県のみなさま、広く社会のみなさまに、大変なご迷惑とご心配をお掛けし続けておりますことを心より深くお詫び申し上げます。

4月より、当社は「燃料・火力発電」「一般送配電」「小売」の3つの事業を分社化し、ホールディングカンパニー制に移行しました。

分社化後も東京電力グループ全員が心をひとつに、「福島への責任を果たす」、「福島を忘れない」という共通の目標・使命を果たしていくということはいささかも揺らぎません。

当所は、何より地域のみなさまに安心していただけるよう、発電所の燃料をしっかりと冷却し続けることを最大の使命とし、日々の巡視・点検を継続していくとともに、緊急時に備えて配備した資機材を使った訓練を重ね、引き続き対応力の強化を図ってまいります。

また、福島第一原子力発電所の廃炉作業につきましても、引き続き支援をしてまいります。

「福島の復興」こそが、私たちの原点であることを常に忘れず、福島復興への責任を果たすため、引き続き、全力を尽くしてまいります。

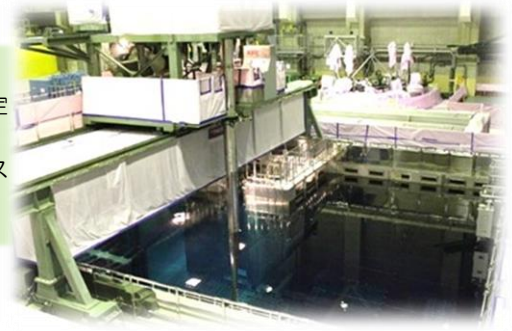


福島第二原子力発電所
所長 設楽 親

燃料の安定冷却

すべての燃料は使用済燃料プールで保管し、安定冷却を継続しています。

冷却設備の日々の巡視や、計画的なメンテナンスを行い、この安定した状態を継続していきます。



緊急時の備え

緊急時における電源および燃料の冷却を確保するため、津波の影響を考慮し高台へガスタービン発電機や消防車等を配備しています。これらを使用した緊急時対応訓練を計画的に実施しています。



福島第一の後方支援

これまで福島第一廃炉作業で使用するタンクの製作や港湾内の海底に敷設する被覆材の製造等を行ってきました。引き続き廃炉作業が着実に遂行できるよう支援していきます。



人身安全の取り組み

作業員の安全を確保するため、危険を実際に体感する研修や、作業現場に隠れている危険箇所を見つけ出すトレーニングを実施し、引き続き労働災害の防止を図ってまいります。



災害撲滅に向けた安全総決起集会を開催しました

- 当所は、関連協力企業の方々を含め、発電所一丸となった安全総決起集会を4月19日に開催しました。
- 当日は、決起集会に先立ち、前年度の安全活動に対し無災害を達成した企業や安全活動に貢献した功労者に対する表彰を行いました。
- 集会では、新年度もゼロ災害に対する安全意識を喚起するため、代表者による決意宣言、参加者全員によるスローガンの唱和やシュプレヒコールを実施しました。参加した皆さんは、決意を新たにしていた様子でした。
- 今年度も、発電所長をはじめ、所内各部門責任者らによるパトロールなどを通して作業現場で働く方に安全を呼びかけ、基本動作や基本ルールを遵守し労働災害撲滅に努めていきます。



安全について呼びかける所長



無災害記録表彰



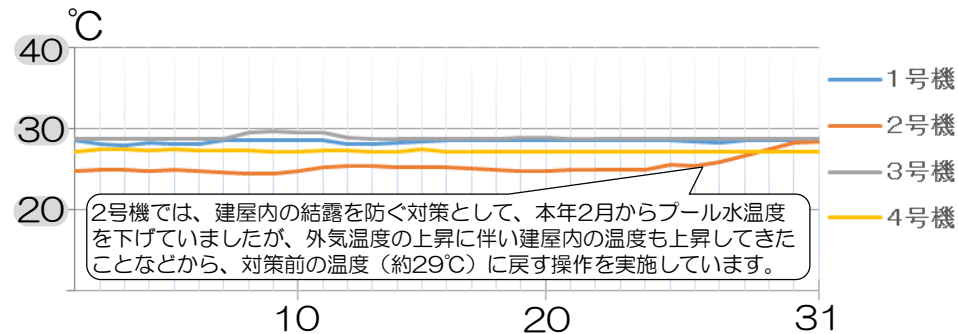
安全決意宣言



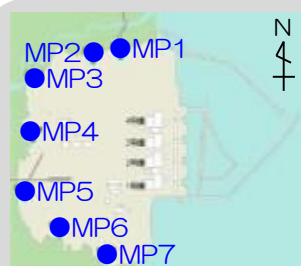
参加者（約400名）全員によるシュプレヒコール

燃料の冷却状況(3月分)

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。



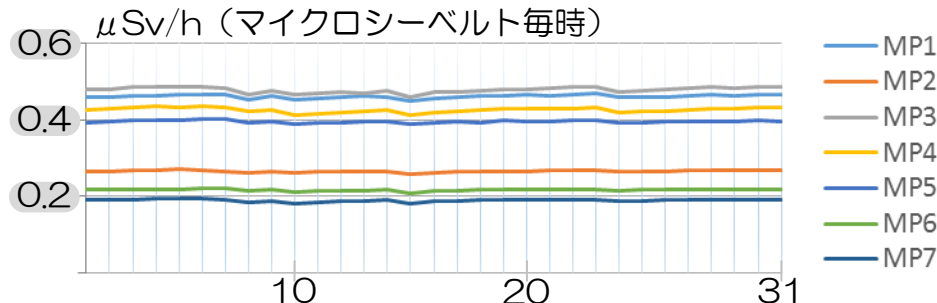
発電所周辺の放射線量計測状況(3月分)



構内に設置している全7基のモニタリングポスト(MP)により敷地周辺における空気中の放射線量の測定を常時行っています。

◇天気と放射線の関係について

空気中の放射線量については、天気によって変動します。一般に、雨が降ると空気中の自然の放射性物質が地表に落とされ上昇します。一方、雨による水たまりや積雪ができると、大地からの放射線が水や雪によって遮られ低下します。



これまでの使用済燃料プール水温度やモニタリングポストの計測状況については、当所ホームページをご覧ください。

ホームページURL

<http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>

QRコード



福島復興への責任を果たすために、福島第二原子力発電所は引き続き燃料の安定冷却を継続してまいります。

【お問い合わせ】福島第二原子力発電所 企画広報グループ
tel 0240-25-1353 受付時間(平日)午前9時～午後5時